



つなぎ つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和7年6月20日

第57号

江別市教育委員会

総務課・学校教育課

小・中の先生方が同じゴールに向かって連携・協働 ～野幌中学校区小中一貫教育合同研修会～

5月の連休明けから各中学校区で全体会議や合同研修会等が開催され、令和7年度の小中一貫教育が本格的に始動しています。会議・研修会では、4月22日（火）の小中一貫教育担当者会議での協議・確認内容等を踏まえ、中学校区の小中一貫教育の目指す子ども像やグランドデザインについての共通理解を図り、タイムマネジメントに位置付けられている具体的な取組等について、熱心な協議が行われています。

野幌中学校区では、5月8日（木）に野幌小、東野幌小、野幌若葉小、野幌中の教職員が一堂に会し、特別部会と教科部会に分かれて今年度の取組について協議・検討を行いました。

特別部会は8部会構成となっており、主に「目指す子ども像」の具体的な指標となる「サブ目標」の1つ目「夢や目標を持っている児童生徒が85%以上」の達成に向けた各種の取組の企画・実施等を進めていくことになっています。主な協議内容は以下の通りです。

特別部会の部会名	協議内容
学力向上部会	学習における基礎基本の定着を目指した標準学力検査結果の分析、9年間の一貫した指導（学習スタンダード）の定着と対策
教育課程部会	ICT等による情報活用能力を高め、探究心や自信を育てる
児童生徒交流部会	先を見通した活動、児童生徒の相乗的・補完的な活動の工夫
児童生徒指導部会	活気と安心感のある野幌中学校区を目指した一貫した指導（挨拶運動、生活スタンダード等）と児童生徒交流
特別支援教育部会	多様な児童生徒の実態交流や対応の交流
養護教諭・栄養教諭部会	保健室利用状況を含めた児童生徒の実態交流
CS・PTA部会	CSやPTA活動の情報交流、人材バンクの交流と検討
事務部会	予算運用に関わる情報交流、検討

教科部会は、教科ごとに発達段階に応じた目標を検討し、「系統的な指導」や「一貫した指導」を進めながら児童生徒の課題を解決していくことを目指して、今年度から新たに設定されました。9つの教科に加えて特別支援教育の「自立部会」と「生活単元部会」が作られ、11の部会で児童生徒の資質・能力の向上を図っていくこととしています。

野幌中学校区では、昨年度までの成果と課題を踏まえ、他の中学校区の取組も参考にしつつ、小中一貫教育の進化・改善を着実に図っています。



特別部会 学力向上部会



教科部会 国語部会



教科部会 理科・生活科部会

中学校区で「地域とともにある学校」づくり

～江陽中学校区の合同学校運営委員会開催～

5月20日（火）に江陽中学校区（豊幌小・江別太小・江陽中）で初めての「えべつ型コミュニティ・スクール」の合同学校運営委員会が開催されました。

江陽中学校区では、元々、PTA 活動やおやじの会、見守り隊、児童生徒の安全に関する会議等による学校と地域の連携が進められてきました。さらに、平成29年の「えべつ型CS」の導入以降、学校ごとに学校運営委員会が設置され、各校の学校経営方針や学校関係者評価の承認、学校運営や学校支援の方向性に対する意見反映等が行われるようになりました。

今回は、令和5年度から本格導入された小中一貫教育と連動した取組として、初めて3校合同の学校運営委員会を開催することになりました。江陽中学校区では、既に小学校と中学校の両方で学校運営委員を務めている方もいて、小中一貫教育の視点から学校経営方針や教育活動についてご意見等をいただいていた。

また、江陽中 CS では、令和4年度に「小中合同新体カテスト」の様子を学校運営委員の方々に参観していただく取組も行っていました。

合同学校運営委員会では、各学校の経営方針等に加えて、「小中一貫教育グランドデザイン」についても説明が行われ、3つの CS 内での共通理解が図られました。

また、学校ごとに分かれた委員会も開催され、委嘱状の手交や経営方針等の承認、熟議等が行われました。熟議の中では、「高校との連携」「通学路の安全」等の話題で熱心な話し合いが行われました。全体としては終始なごやかな雰囲気の中で委員会が進み、江陽中学校区ならではの学校と地域の関係性が感じられる合同学校運営委員会の開催となりました。



経営方針等を説明（江陽中）



委嘱状の交付（豊幌小）



熟議を進める（江別太小）



中学生の授業を参観

小中一貫教育を通して特別活動の充実を図る

～児童会と生徒会合同の挨拶運動が子どもの自主性を育む～

5月9日（金）に第一中学校区と第三中学校区、6月4日（火）に第二中学校区で児童会と生徒会合同の挨拶運動が行われました。小中一貫教育の導入以降、継続して取り組んでいる活動で、中学校区の挨拶の輪を広げるとともに、小中が連携して子どもたちの自主的・自治的な姿勢を育む取組となっています。また、小学校低学年の子どもたちにとっては、児童会・生徒会の役員が自分の目標（なりたい自分）となっています。

【子どもたちの感想】

※第二中校区

小学生…「中学生のみなさんのすてきなあいさつが勉強になったので、次のあいさつ運動では教えてもらったことを生かして、もっとすてきなあいさつができるようにしたいです。」

中学生…「中学生も小学生の明るい笑顔の挨拶をお手本にしたいと思いました。小学生の皆さんは、これからもっと笑顔の挨拶を増やしていってけると嬉しいと思います。」



第一中校区挨拶運動



第二中校区挨拶運動